

能登半島地震から4週間が経ち、一部の地域では災害ボランティアの受け入れも始まった。

これまで、被災地の方々は短時間で様々な決断を迫られた。被災地に残られた方、市外や県外に避難された方、子どもの転校手続きを行った方、家族が離れ離れになった方と様々である。実際に2次避難された方々にお話を伺うと、避難先は自由に決められるわけではなく、個室で温かい食事が3食提供される場所もあれば、食事や駐車場をすべて実費で確保しなければいけない場所もある。更に、家族以外と相部屋になる場合もあると話を聞く。

先日、白山市に避難された太鼓関係者が浅野太鼓楽器店にお見えになった。

「被災地にいた時は、避難所の管理スタッフとして動いていたから気が紛れていたけど、こちらに避難してきてから、現実を突きつけられる。今の自分には家もない、働く場所もない、自分が情けなくなってくる。何もないことが本当に情けない。無力すぎてつらい。」とお話された。

被災地の方々は、言葉に語り尽くせない程の生活再建への不安とつらさを抱えている。地元の同店が少しでも太鼓仲間たちの心の拠り所となることを願っている。

*

*

*

2024年1月27日(土)

富木八幡太鼓保存会(志賀町富来)

代表者3名と、志賀町富来の避難所の一つである富来活性化センターで待ち合わせをする。

志賀町では27日より、県登録の一般災害ボランティアの活動が始まった。富来活性化センターの隣にあるドラッグストアには、生鮮食品やカップ麺、お菓子が並び、水の箱が積み上げられていた。断水が続いているが、物流は動き始めている。

しかし避難所となっていた学校の再開に伴い、避難所の数が減り、一部の場所に多くの人が集まるということが起きている。また、長期間の避難所生活に心身ともに疲れ、安全ではないご自宅に戻られる方々もいる。

今回、避難所生活を余儀なくされている同メンバーの方から、「最初は水と冷たいおにぎりやカップ麺だけ、今はお弁当が配られるようになった。だから、少し野菜は取れるようになったのだけど、弁当は冷たいんだ。水もお湯も手に入るのだけど、温かい味噌汁が飲みたい。」と事前にお電話で伺っていたので、お味噌汁やスープ類を中心にお届けした。また、待ち合わせ場所の施設内に太鼓が保管されており、その無事も確認した。



被害が大きかった場所の一つである領家町を通る。同町にある住吉神社は、1000年前から始まったと伝えられている「富木八朔祭礼」の巡行地である。2日間にわたり開催され、太鼓や鉦の音が鳴り響く中、各地域から集まった神輿やキリコが乱舞する。

参加地域の一員である富木八幡太鼓のメンバーが「新型コロナウイルスの影響で、昨年4年ぶりに通常開催されたけど、今年はまた・・・。」と声を詰まらせていた。

領家町の様子



富来領家町の住吉神社



*

*

*

2024年1月28日(日)

輪島高洲太鼓

11日に伺った時は、片道6時間を要した道のりが、3時間半ほどで到着することができた。まだ輪島市への主要道路は繋がっていないが、渋滞は少しずつ緩和されつつある。しかし、市内に近づくにつれ、積雪や度重なる余震の影響で倒壊が進み、道に崩れ落ちた家屋も見られる。断水は続き、給水車や井戸水、湧き水で日常を過ごされている。

午前中に、石川県太鼓連盟の中橋事務局長と工房長屋で待ち合わせをする予定であったが、地震で傾き始めていた電柱が倒れ、道路が通行止めとなり、午後から事務局長のご案内で太鼓の保

管練習場である鶴巣公民館(旧輪島市立深見小学校)へと向かった。

このあたりは大規模な土砂崩れにより、震災直後から2週間ほど孤立状態となっていた。現在は通行可能となったものの、道路の陥没や隆起は多い。さらに少し先には、観光スポットで有名な白米千枚田がある。千枚田は所々がひび割れ、海岸が隆起している。本来なら、そこから車で2分ほど走ると御陣乗太鼓保存会のある名舟町が見えるのだが、海まで続く大きな土砂崩れで、道が寸断されている。

輪島市内の様子



鶴巣公民館までの道



道の駅千枚田ポケットパーク



土砂崩れのすぐ先が名舟町

鶴巣公民館に入ると、太鼓運搬口が土砂崩れで埋まり、体育館入り口も足元に隙間があり、壁が下がっている。写真では分からないが、床は波打ち、廊下を歩くとその歪みにめまいを起す。太鼓が置いてある場所に雨漏りは見られなかったが、天井に近い窓が開いたままの状態になっており、壁側に置いてある太鼓を体育館中央に避難させた。

今後、太鼓を運び出せたとしても、その保管と練習場所の確保が問題となる。

鶴巣公民館



太鼓の運搬口となっている掃出し窓から土砂崩れが見える



体育館入り口 壁が下がり扉も歪んでいる



石川県太鼓連盟の事務用品も保管されている

鶴巣公民館を後にし、ホテルこうしゅうえんに向かう。年始に演奏予定があったため、太鼓が保管されていた場所である。メンバーの一部の方々が集まり、太鼓の無事を確認し、高洲太鼓のトラックに楽器を積み込む。一緒にお手伝いをする小さな子どもたちの姿と、明るい声に思わずほっとする。

また、現地に残っている子どものために、筆記用具一式とノートが欲しいとのお声があり、支援物資としてお届けした。石川県立門前高等学校に通うキャプテンの橋本大輝さんから「明日から、オンラインでの始業式が始まります。画面越しだけど、みんなに会えます。本当はやっぱりちゃんと会いたいけど。」とお話を伺う。

輪島高洲太鼓は、昨年12月に初の自主コンサートを成功させた。そして今年2月には、一般財団法人石川県芸術文化協会の海外派遣事業として、ハワイ演奏が予定されていた。能登半島の太鼓が再び、響き渡る日がくることを、切に願う。



日本太鼓財団 支援物資一覧表 (2024.1.27・28)

富来八幡太鼓保存会

購入先	項目	数量	金額
プラント	紙容器	3袋	7,116
	紙コップ	2袋	
	インスタントスープ	8袋	
	インスタント味噌汁	3袋	
	インスタントコーヒー	2箱	
		合計	7,116

輪島高洲太鼓

購入先	項目	数量	金額
事務キチ	ノート5冊入り	4個	10,305
	シャープペン	9本	
	蛍光マーカー	18本	
	4色ボールペン	9本	
	マジック5本入り	2個	
	消しゴム	9個	
ダイソー	筆箱	9個	994
		合計	11,299
		総計	18,415

上記支援のほか、浅野太鼓楽器店様より、味噌汁、お菓子のご提供いただき、併せて支援物資とした。
(2024年2月7日)

* * *

前報告以降、
 榎引秀明様から 50,000 円
 浅野義幸様から 100,000 円
 のご寄付をそれぞれ頂いています。
 寄付金の累計額は 2 月 2 日現在で 2,725,000 円となりました。ありがとうございます。

収支計算書(2/2 現在) (単位：円)

収入		金額	属性	備考
1/5	全九州太鼓連合	1,000,000	地区	
1/6	関八州太鼓連合	100,000	地区	
1/9	東北太鼓連合	300,000	地区	
1/18	浅野太鼓楽器店	1,000,000	賛助	
1/27	河合 光夫	10,000	その他	シニアコンクール出場者
1/29	福井県太鼓連盟	30,000	支部	
1/29	松本 弘昭	35,000	その他	シニアコンクール出場者
2/1	東京都支部	100,000	会員	
2/2	櫛引 秀明	50,000	その他	シニアコンクール出場者
2/2	浅野 義幸	100,000	その他	浅野太鼓楽器店 17 代当主

計 2,725,000

支出		金額		備考欄
1/11	輪島支援物資	121,741		
1/19	穴水/能登町/志賀町	130,080		
1/28	志賀町/輪島	18,415		

計 270,236

収支差額		2,454,764		
------	--	-----------	--	--